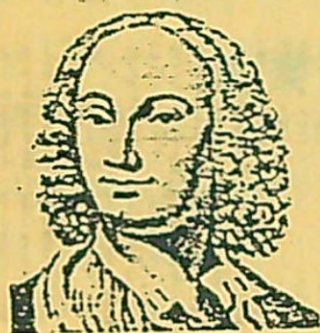


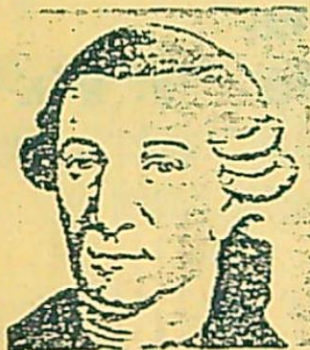
倉敷管弦樂團和氣演奏会

クラシックコンサート

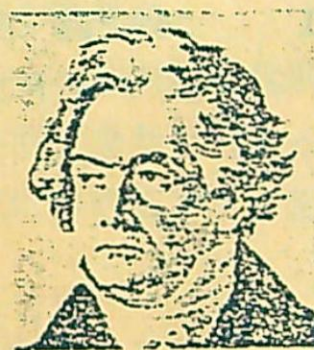
指揮 菊池 東
出演 倉敷管弦樂團



モーツァルト



ハイデン



ベートーベン

日時 昭和61年11月3日(文化の日)
(午後1時30分開場・2時00分開演)

会場 和氣町総合福祉センター

主催 岡山県郷土文化財団・和氣町・和氣郡北部教育委員会
後援 東備地方振興局

曲 目

I 弦楽合奏

ヴィヴァルディ作曲「四季」から「春」

II 木管合奏

ハイドン作曲 木管五重奏曲

III 金管合奏

パーツェル作曲 ソナタ第22・32番

IV オーケストラ演奏

ベートーヴェン作曲

交響曲 第5番 ハ短調「運命」

曲 目 解 説

* * ヴィヴァルディ作曲「四季」から「春」

◆「四季」は、独奏バイオリンと、低音楽器として鍵盤楽器(普通はチェンバロ)を伴った弦楽合奏とで演奏される。全曲は、春・夏・秋・冬のソネットに基づいて作られ、「春」はその第1曲で三つの楽章でまとめられている。

* * ハイドン作曲(1732~1809) 木管五重奏曲

オーストリアの作曲家 18世紀後半のウィーン古典派を代表する作曲家で100曲以上の交響曲 70曲近い弦楽四重奏曲などによって古典派の器楽曲の典型をつくりあげ特に第1楽章におけるソナタ形式の完成者として名高い。

* * ペー ツェル (1639~1694)

ヴァイオリン2、ヴィオラ3、通奏低音のための12の組曲からヴァイオリン2、ヴィオラ3、通奏低音のための25曲にいたるまで彼の器楽曲はかなりの数が出版された。かれはドイツ中期バロックの合奏組曲の分野で高く評価されている。

ベートーヴェン (1770~1827)

ベートーヴェンの弟子であり、晩年のベートーヴェンにこまめに仕えた、シントラーによると この曲の第1楽章冒頭を指してベートーヴェンは「このように運命は戸をたたく」と言ったという。「運命」の名はここに由来する。当時ベートーヴェンは作曲家として致命的な耳の病におかされ、失恋の傷みも加わって死のうと考えて遺書も書いたりした。しかし強じんな人だった彼は、この苦悩を克服して、中期の充実した作品群を書き上げる。第5交響曲は、それらの作品群の頂点に立つベートーヴェンの生きざまを象徴するような曲である。